

音楽係のつばやき

2017.11.12 兼崎



ナシの花 (Wikipedia より)

➤ 大中 恩の合唱曲

大中 恩氏は「椰子の実」の作曲者である大中寅二を父として 1924 年に生まれ、今なおご存命です。私たちの世代では、彼の合唱曲は最も多くステージで演奏されたのではないかと思います。

初期の代表作と言われる「わたしの動物園」は私にとって思い入れのある作品です。就職して間もなく、安月給の中から 2,000 円を奮発して買った『わが家のホームコンサート 第 12 巻 コーラスのハーモニー (ビクターレコード) 』にこの曲 (コール MEG 演奏) が収録されており、毎日のように聴いていました。芸術祭優秀賞を受賞した混声合唱曲「島よ」(1970 年) は最もよく知られた曲のひとつで、数年前に伊勢原混声合唱団で演奏しました。

今後、大中 恩氏の合唱曲の中から郷愁・恋情をテーマにした数曲を取り上げてみたいと思います。

ところで、作曲家の新実徳英氏が先に述べた合唱団コール MEG のメンバーだったことはご存知でしたか。

➤ 淡月梨花の歌 … 佐藤春夫作詩、大中恩作曲

・ 以下は、和歌山県新宮市「佐藤春夫記念館だより」ブログ 館長のつばやき(2015/8/13) より引用したものです。

『もろく すなほに さびしげに そなた たとへば なしのはな かぜに ふかれて いとほしや

ごく私的な、詩的表現で千代に贈られた詩句。団扇 (うちわ) を手にする芸妓 (げいぎ) 姿の千代の肖像写真の台紙の裏に記されたもの。千代は、終生、手元に置いて大切にしていた。

春夫は第 3 の詩集「佐藤春夫詩集」(1926 年 3 月刊) のなかに、「淡月梨花の歌」があり、「かなしく白くうつしく／わが心こそぞろなれ。／あはでむなく過ぎにける／汝 (な) がむかしこそ憾 (うらみ) なれ。／夕月あはき梨花 (りくわ) にして／汝が立てるこそ切なけれ。／ああかかる日に君をみて／かたりし人ぞ嫉 (ねた) ましき。」と書いている。その前書きに「手に団扇もちて立てる舞姫姿の君ありき」とある。淡い月光を浴びた梨花の花は、千代の姿に気品高い美しさを見出した比喻。白居易の長恨歌 (ちょうごんか) の一節、「梨花一枝春雨を帯ぶ」をも連想させる。』

・ 上記の「千代」は、谷崎潤一郎夫人の「千代子」のこと。佐藤春夫は谷崎潤一郎と親交を結んだが、潤一郎夫人千代子と恋愛、三角関係の愛憎のなかで生まれた詩です。美しい旋律に乗って男の屈折した恋情が語られる印象的な曲です。1 月の海老名市合唱のつどいで取り上げる予定です。